

中国上海視察報告書

平成 14 年 10 月 11 日～14 日

河内長野東 R C

河内長野東 R C の職業奉仕委員会は、今世界で最も発展していると言われる上海視察を 会員 10 名、夫人 3 名で行った。上海渡航 30 回を数える細川職業奉仕委員長を団長として、他の会員は初めての上海でした。ご夫人は中国の治安や食べ物を心配していたので、ホテルはオークラ花園飯店にし、朝食は花園飯店のバイキングと和食。錦江飯店の四川料理。海鷗舵の上海海鮮料理。翁屋魚翅の広東料理を選んだ。これらの料理は全て大好評であったので、これから行かれる方のために特記しておきたい。

10 月 11 日(金) 11 時 30 分関空発 時差 1 時間で 12 時 30 分。2 時間で上海浦東空港着。

貸切の小型バスで高速道路を経て上海市内の豫園、商場、老街を見学。道路に沿ってリニアモーターカーの基礎が列なっています。来年の 5 月に完成。空港と市内間 35 キロを 7 分間で結ぶ。時速 5 0 0 キロ。日本の新幹線より速いとガイド。ドイツは北京、上海新幹線を中国から受注。そのプレゼントだそうです。豫園商場で、休憩がてら中国茶の店で色々なお茶を点て貰う。執拗にお土産にと勧められ買った袋に堺市のコーナンの印刷がされていたのには複雑な気がした。夕食は花園飯店の隣の錦江飯店北楼で四川料理。その後、外灘から、旧租界地区、黄浦江を挟んで浦東地区のイルミネーションを見学した。



浦東地区のイルミネーション



旧租界地区のイルミネーション



金茂大廈ビルの前にて

10 月 12 日 経済特区の浦東地区の見学

10 年前は農作地帯であったが、今では高層ビルが 2 0 0 を越えるそうです。その象徴がテレビ塔と並んで、日本の森ビルが建てた金茂大廈である。地上 8 8 階建て、高さが 4 2 0 メートル。その展望台へ上りました。8 8 階からの眺めと中国の底知れないパワーを感じました。昼食を昨夜の対岸の浦東地区から、旧疎開区を見渡せる海鷗舵の上海海鮮料理を頂き、これも大好評であった。午後から買い物兼ねて国营シルク工場の見学をした。

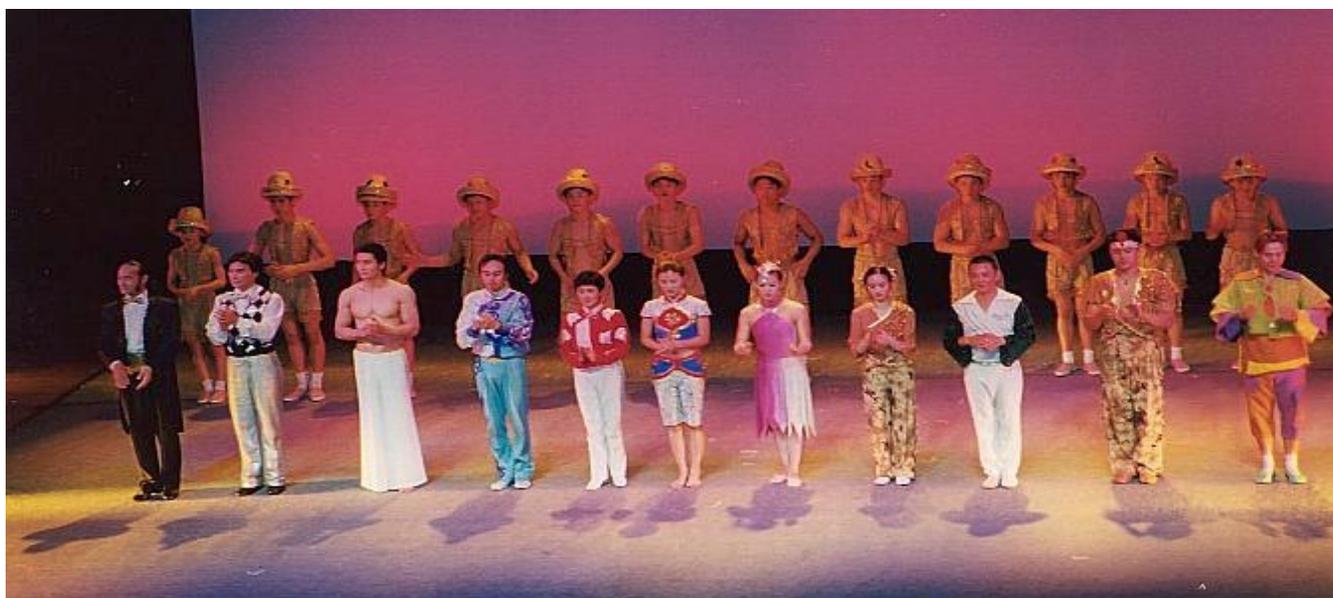


シルク工場は蚕の生態。繭から糸を取る現場。布団を作る工程。シルク製品を着た怪しげなファッションショーなるものまで見学。
後は商売用の日本語でお決まりの押し売り攻撃でした。

国営シルク工場での繭布団を作る工程。

翁屋魚翅の広東料理 一日遅れで着いた三軒夫妻とここで合流。夕食メニューの鮑の旨煮にフカヒレコースに全員舌鼓を打った。

上海雑技団の観劇



上海雑技団の個人芸、団体芸のユーモラスと迫力は素晴らしく感激しました。

10月13日 三軒夫妻は、蘇州の見学。本日帰国組みは、午前中自由行動。地下鉄に乗り、近隣下町を散策した。スーパーや下町の雰囲気味わいが意外と大好評であった。

三軒会員レポート 今の上海は社会主義といえるのでしょうか。土地のみが国有ですが、頑張ってお金を持てば家も買えるし、車も持てる。殆どの人が必死に働いており、将来経済大国になる予感がした。今は給料が安いので共稼ぎが殆どで、子供は退職した両親に見てもらおうか、保育所に預けるかです。保育所は日曜日に連れて帰る以外預ければなしで、親子の情が湧き難いとのことでした。病気になると若い人は9割が自己負担で国は1割、老人になると1割が自己負担で9割を国が払ってくれる。一人っ子政策も農村では上が女だと男が生まれるまで生めるそうです。上海に居ると社会主義の国という気がしない。翌日、上海博物館を見学したが、これがなかなか立派でまだまだ観たいものばかりでした。

この後のページは、報告書と参加者の感想文です。

中国上海視察報告書

平成14年10月15日

河内長野東ロータリークラブ
職業奉仕委員会

10月11日~13日 参加者 会員10名 会員夫人3名

河内長野東 RC の職業奉仕委員会は、当初の活動計画通り、今世界で最も発展している上海視察を行った。上海渡航30回を数える委員長の細川を団長として、ほかの会員は初めての上海でした。ご婦人方は中国の食べ物や、トイレ、治安などを心配されていたので、安全第一を旨としてホテルはオークラ花園飯店、食事は細川団長の経験から、朝食は花園飯店のバイキングと和食。11日の夕食は錦江飯店北楼の四川料理。

12日の昼食を海鷗舵(カイホウポウ、上海海鮮料理) 夕食は、翁屋魚翅(フカヒレ、広東料理)を選んだ。これらの料理は全て大好評であったので、先ずこれから行かれる方のために特記しておきたい。

10月11日(金) 11時30分関空発 12時30分上海浦空港着。(時差1時間)2時間のフライトで上海に到着。現地ガイド曲宏玲さん迎いの専用バスで上海市内に向う。バスは小型であつたが新しく清潔である。途中、明時代に立てられた豫園、豫園商場、老街を見学。休憩に中国茶の店に入る。

中国茶法でジャスミン茶、ウーロン茶、1枚葉の緑茶などを飲ませて頂く。茶を点てた店員が商売用に覚えた日本語で、飲んだお茶や保険茶をお土産に進める。腎・肝・心・糖・胃・脂・花粉・養顏茶と薬好きの日本人にちゃんと合わせてある。補気元膏・温補腎陽膏・育陰膏・養血生液膏と滋養剤までありました。買い物袋には堺市のコーナンの印刷がされていました。又、欲しかったら日本のコーナンに売っているそう。何も日本のコーナンに売っているものをここまで来て買わなくても。荷物になるのに……。

16時30分 花園飯店着 日本のホテルオークラ経営の上海一のサースと評されるホテルです。出迎いのボーイ、受付の応対も中国を感じさせません。

夕食を早めにとる事にし、5時15分ロビー待ち合わせ。夕食は通りを挟んだ隣の錦江飯店北楼。信号付きの横断歩道まで行くと遠回りです。皆で渡れば怖くない。ガイド曰く。「道路で優先されるのは人か、車か、自転車か？」。勇気優先だそうです。ロシアが建設したレンガ造りの建物で、玄関にはインド人の守衛が立っています。12階は四川料理。エレベーターを降りるとチャイナドレスの案内係に個室に導かれる。飲み物は青島生ビール。紹興酒は5年物。8年物。10年物とある。5年物が1,000円とすると8年物は2,000円。10年物は3,000円となるそう。飲み比べてみると、やはり10年物はまるやかである。前菜。くらげ、きゅうりの酢の物、特筆するものは麻婆豆腐。辛いがお変わりをしたい位。次か次へと出てくるのでスロー、スローと言いました。

あつという間の夕食でしたが皆様旨い。美味しいの連続でした。食後は外灘のイルミネーション。電力供給が良くなったとみえて照明がかなり明るくなったようです。日本人観光者相手に夜にまみれて、怪しげにロレックスの時計を1個2,000円で売りにくる。無用(ブヨウ)無用と言っても執拗についてくる。帰りかけると1,000円まで値下がりました。足裏マッサージ組みとホテル直帰組みに分かれ、マッサージは足裏が1時間3,000円。全身が4,000円でした。直帰組みはホテルのスカイラウンジへ行きました。

12日8時、朝食 本日は全員バイキングコースへ。9時30分 浦東経済特区の見学です。故登小平が、この浦東を経済特区に指定した10年前には農作地ばかりで何も無かった所に、東洋一高いテレビ塔。日本の森ビルが建てた88階建ての金茂ビルを始め、立ち並ぶ高層ビル群は200を超える。「百聞は一見に如かず」各国から出資で建設途上のビジネス区。

10車線の道路を挟んで住居区。外灘から黄浦江を挟んで経済特区に指定されて10年余。

西側は30年前の中国 浦東経済特区は10年後の上海。浦東経済特区の整備されたスケールの大きさには、日本には無いもの。マネのできないものを感じました。

浦東経済特区を一巡して、日本の森ビルが建てた金茂大夏ビルの見学です。

高さ420.5m、地下3階地上88階建て。中庭式吹き抜けが56階から152m28階分も取っており、このビルのお話となっており、この部分にグランドハイアットホテルが入っている。9.1秒の高速エレベーターは三菱電機の宣伝のために寄贈設置された。10年前に来た時は隣のテレビ塔が誇らしげであったが、このビルからテレビ塔を見ると低く見えます。地上340メートルの展望台から無限に広がる中国の広大さ、地震の無い大地に立ち並ぶ巨大なビル群。森ビルは第2ビルを建設中で地上100階建、高さ500mという世界一の高層ビルになるそうだ。

空港からのリニアモーターカーも来年の5月には完成(ドイツからの贈り物。ドイツは上海北京間の超特急幹線を中国から受注)。この浦東地区35キロを7分間で結ぶといわれています。「時速500キロ。日本の新幹線より速い。」と言ったガイドの言葉には、10年後、50年後躍進する中国を連想させずにはおれません。今の日本、これからの日本を考えると、今の日本はいかにも年老いて見える。老若男女一体となり、日本の将来を真剣に考え、実践しなければ日本はとてこの国と対抗出来ない。中国の力の奥知れなさを感じずに入られませんでした。

昼食は、海鷓鴣(カイホウポウ)、上海海鮮料理。昨日の夜外灘からイルミネーションを見た黄浦江の対岸の一室で外灘の旧疎開地区を見渡す。黄浦江の水の色はガイドの言葉を借りると味噌汁色だそうです。昨日の四川料理と変わって、上海料理の味は甘さが特徴である。面白かったのはサウナ海老。熱く熱した石の器に生きた車えびを投げ込むと、ものすごい蒸気と共に蒸し海老料理が出来上がるというもの。ここでも5年物、8年物の紹興酒を頂きました。味はこれも最高でした。全員揃って「味道好极了 ウェイダオハホジ〜ラ」大変美味しく頂きました。昼食後、ガイドの土産売り込みコース?になっている前の空港近くの虹橋地区で、国営のシルク工場の見学。蚕の生態、繭から糸を作る工場、シルク製品のファッションショーなるもの。シルクの布団の作られる工程を一応見学して、次へ案内された部屋はシルク製品の並ぶ大きな売り場でした。ここでも若い店員が日本人への売り込み用に覚えた日本語で執拗に付き纏います。シル100%の布団から、シルクの布団カバー、パジャマ、スカーフ、ストッキング、パンツ、ネクタイと何でも有りでした。ガイドは日本人の買い物好きを心得ており、観光コースとなっています。

夕食の時間、雑技団見学の時間が迫っており、ホテルに着くなり出発です。夕食は細川団長が自信を持って奨める、翁屋の鮑の旨煮とフカヒレコース。

待ち合わせの三軒夫妻ともうまく合流でき、13名揃って武藤会長の乾杯。ここは広東料理。

細川団長の前置きが効いてか。モヤシ炒めの前菜には誰も手を出しません。フカヒレの姿煮、フカヒレスープ、そして鮑の旨煮。全員美味しい、旨いの連発です。ここの店の特徴のマンゴープリンを由水会員の発案で特別に注文しました。お腹がパンパンになったところで雑技団へ向きます。

上海雑技団の巧妙なトリック芸、鍛え上げられた体力芸、練り抜かれた団体芸に超満員の歓声と拍手は上海の必見の芸術でした。

13日 7時三軒夫妻は蘇州観光コースへ出発。他の人は8時に日本料理の山里へ朝食。ここの料理は全く日本のホテル、旅館と同じ味でした。11時50分の集合まで自由時間です。

地下鉄で下町の散策。意外にもこの自由時間で皆様上海旅行を吸収。堪能したようだ。

11時50分。小型バスに積みきれないほどの土産で一杯になって、窮屈な格好でバスに乗り空港まで。あっという間の3日間。ガイドさんも本当に良く頑張ってくれました。空港で最後の中国料理。青島ビール。肉ラーメンと餃子(香港の出店)で中国食とお別れです。

参加者の感想文。

武藤久三会長 孝子夫人 上海視察旅行に参加して

私も家内も上海は初めてで一度機会があれば訪ねてみたいと話しておりました。今回このような企画をして頂き有難うございます。

先ず、空港から市街地までの高速道路の素晴らしさに感動しました。道路はもとより中央分離帯は10mもあるでしょうか。美しく植樹され、前方サイドの車窓からの眺めは、まるで建築博でも見学しているような感じでした。

ツアーガイドさんの話によるとわずか、10年前は田園地帯だったとか。ハイスピードで疾走する経済都市上海を先ずは目の当たりにし、驚いた次第です。

1920年代の建築郡が並ぶ外灘地区のイルミネーション輝く夜景、対岸には高層ビルが立ち並びその対比は素晴らしく、第一金茂大夏ビル88階からの眺め、建築内の吹き抜けも見事なものでした。また、いつもテレビでしか見たことの無かった有名な上海雑技団のショーも見る機会を得ました。実演を近くで見るのはもちろん初めて。迫力あり大変見ごたえのあるものでした。

最終日は地下鉄に乗ったり、市内を散策したり、市場、スーパーなどを見学しました。通常の海外旅行ではなかなかできない体験でした。実感したのは物価が非常に安いということ、さすが中国と実感致しました。

食事は過去に細川さんが何度も行かれたレストランでのお奨め料理を沢山頂き、お腹も心も満足致しました。アジアの中でも上海は最も開発ラッシュが盛んで分譲マンション、ゴルフ場など現在建築中の建物は4,000件以上あるそう。今の日本の状況を考えると羨ましい様な、少し前の日本のバブル時代を思い出された方も多かったのではないのでしょうか。最後になりましたが、楽しく有意義な上海旅行を企画して下さい上、旅行中も何かとお世話頂き本当に有難うございました。感謝致しますと同時に家内共々御礼申し上げます。

山口征一幹事 上海視察旅行の感想

今中国では急激に経済が発展している。中でも上海はその中核都市となっている。一度訪れてみたいと思っていたところ、職業奉仕委員長が企画していただきました。空港より市内に向う高速道路、たっぷり広い8車線道路でした。

さすがに日本のように用地買収の手間も無く、好きな広さに思うように建設できると感じました。またその横にリニアモーターが建設中で来年完成すること。発展のスピードを感じました。2日目は浦東経済特区を見学に行きました。10年前田園であった所が、超近代的なビル群に変わりました。その内世界三番目の高さの金茂大夏ビルに上がり、市内全体を視察でき、上海の発展振りが観察できました。

欧米中心でアジア人蔑視の現在、日本、韓国、中国が発展し欧米を追い抜いて欲しいと願っています。特に中国は1400年前、遣隋使、遣唐使が行ったように、世界の文化経済の中心であった。そういう素地があるのだから、これからも世界の中心となってもらいたい。今回視察してその可能性大なりと感じました。ツアーガイドは土産品店を回らすのは控えめにして、観光地だけ案内してもらい、ショッピングは自由にしてもらいたい。三日目自由時間に市内をぶらぶら歩きながら表通りの華やかさに比べ裏側は昔ながらの町でした。こういう所を自分の足で歩き、庶民の実態を観察でき有益であった。また、中華料理のうち、四川料理、上海料理、広東料理をたっぷり堪能でき、会員皆様と親睦を深めて楽しい旅になりました。

山口博子夫人 上海視察旅行に同行させていただいて

初めての中国上海、空港に降り立ってすぐに高層ビルの林立。四車線の広い道路に驚き、又よく晴れているのに黄砂のために霞む町。どこを見ても発展を遂げている活気を感じました。最初に訪れた豫園、上海老街は古い建物と下町の風情に庶民の生活の匂い、たくましい商魂をかいま見ました。

二日目 浦東経済特区見学。金茂大廈に上り世界第三位の展望を実感し上海の街を一望、長江支流の黄浦江がゆったりと茶色い水を満々とたたえ、曳船の往来の様は中国の雄大さを感じます。又、道を一筋入るとまだ旧来の貧しい下町の営みも見え上海の表と裏を見ることが出来ます。黄浦江、バンドの照明に浮かび上がる夜景は圧巻で、昼間どの公的、私的建物も比較的薄暗い照明にしていたのはこのための節電であったのかと推察されます。

三日目 出発までの自由時間。庶民の行くスーパーや市場も見て歩き、物価の安さに昨日聞いた給料の安さも納得。知能的な物乞いにも遭遇したり、路傍の焼芋屋に高額の芋を買ったらしく、おじさんの喜びとも驚きとも付かぬ表情を楽しんだり、とても楽しい一時となりました。三日間を通じさすがに食の国、美味しい料理を堪能し上海を

満喫できました。お世話下さいました皆様本当に有難うございました。

堀田智彦会員 上海視察旅行感想

上海についてですが、私は以前の上海は知りません。と言いますのは、私は生まれてこの方海外に旅行したのは、ハワイと台湾の2回だけです。今回参加して感じたことは、今まで聞いていた中国と目のあたりにした中国との変わりようは凄いものがあると感じました。

共産主義社会の中において、資本主義的な要素を取り入れて経済の発展をなしつつあると思います。バスで市内を回りましたが、繁華街と言いますか表通りには立派な建物が立ち並んで、綺麗な町並みですが一步路地裏に入れば、昔ながらの街並みが垣間見えます。しかし、一方開発の進んでいる地区を見れば、道路は広く、高層ビルが立ち並んでいました。

初日に行きました豫園・豫園商場・老街は古き中国の面影を残し、大切に保存されているものと思われます。また、夜の上海の夜景は素晴らしく日本の道頓堀の夜景の比ではなく日本では味わえない景色でした。

翌日に行きました浦東経済特区は、数多くの高層ビルが立ち並び中でも金茂大廈ビルは素晴らしいビルで、88階の展望室からの眺めは、目を見張るものがありました。展望室中央に吹き抜けがあり、下を見ますと足がすくむ思いをしました。又、テレビ塔のデザインの素晴らしさには驚きを感じました。

まだまだビルの建築や、道路の建設も進んでいます。これから先どこまで発展していくのか想像が付きません。食につきましては、初日は錦江飯店北楼の四川料理、翌日の昼食は、海鷗舵の上海海鮮料理で上海蟹をいただきました。また夕食は翁屋の鮑の旨煮とフカヒレコースをいただき、すべて細川委員長のお勧めのお店並びに料理で大変美味しく頂き満足しました。このように素晴らしい旅をさせて頂きましたのは、偏に職業奉仕委員長のお陰と心から喜んでおります。有難うございました。

西田幸康会員 職業奉仕委員会上海ツアーに参加して

細川職業奉仕委員長の呼びかけに有難く参加させて頂き、中国4000年の歴史の中から貪欲に学べるものは何でも吸収しようとJALの機内へ...

無能無策の政府の不況対策で、だらだらと続く不景気で元気の無い日本を後に、好況只中の上海へのツアー到着！！真っ先に肌で感じたものは、とても共産国とは信じがたい伸び伸びした中国の人々、先ず、若い人の目の輝きが違うということでした。明日への希望を抱いた若者たちを街角でいやと言うほど見受けた。

海外には幾度となく出かけましたが、1985年位の台湾によく似た経済状態を思い出しました。当時は道一杯に溢れ出したオートバイの二人乗りによる朝の通勤風景、我先に職場へと急ぐ人々を見て、きっとこの国は確実にマネー大国になると感じたものでした。今中国のホンの入り口である上海で、それよりも凄いいパワーに遭遇して日本の現実と比較してみた時に、羨ましさや嫌悪感すら生じてしまいました。わが国ではコンビニの前でたむろしている茶髪の若者達がこれから世界というグローバル社会で生き抜いていく上で、パワー溢れる中国の若者たちに押されてしまうのではないかとすら思ったからである。

将来の日本を背負う大切な若者達をどう夢を抱いて、アジアにまた世界に負けない若者に成長させるかが大き

な私ども大人の課題であると痛感した次第です。食品業界で生きてきた自分としては、中国という大きなシェアで衛生的なスーパーマーケットが脚光を浴び、現地の人たちから要求されるのは程遠くないだろうと実感致しました。特に精肉業界に目を向けたときに食習慣の知識は違おうとも大きなビジネスチャンスがあることを確信いたしました。

特筆すべきは、世界のマネーが中国という大国に吸い寄せられているという現実、その中で頭を持ち上げる個々の人間の欲《向上心》これがビジネスに大いに繋がると思いました。自分の職業を通じて一人でも多くの若者達と語り合い、強い職業人を育成したくなったのも上海3日目の日曜日の朝でした。

南京路のメインストリートでは子供連れのご夫婦が携帯電話をウインドー越しに真剣に欲しそうに見つめていました。収入が増えれば物欲が自然発生するのが人間であり、買いの一方通行から売り買いの交互通行へと移行するそこに大陸の魅力という目玉商品になり世界から集中するのであろうと実感した旅でした。

西野敏隆会員 上海は感謝の街。

このたび、上海視察におきまして、武藤会長、ツアー団長の細川さん、同行の皆様大変お世話になりました。お蔭様で楽しい上海視察ができました。有難うございました。さて、私にとって3回目の上海、10年ぶりに胸躍らしての参加でした。浦東空港についての印象は、あの10年前の姿はとびっくり致しました。空港から町の中心地まで、ビル又ビルの景色に圧倒されました。

同じ十年における日本の現状となぜか活気がこうも違うのか。何か大きな忘れ物をした気分でした。もちろん体の一部分を全ての答えと言う訳ではありません。しかし、この上海に関してはあまりにも、変化が大きく我が目を疑いました。私は10年前、我まま娘を連れての気楽な旅行でした。当時の町中や路地裏へ入るにはなかなか勇気のいることでしたが、娘を連れて行きました。

そして、帰国後娘は、私からの甘えの生活にピリオドを打ち、近大の看護婦学校に入り、自立の道を探り始めました。父親には辛い事でしたが、娘の言い分は、上海の路地裏でたまたま私の名前の敏隆飯店と言う食堂を見つけ、その汚い机の上で小さな子供が手でご飯を食べていました。背中には小さな妹か弟を背負い、見るからに辛い生活環境でした。日本に帰り娘は大きく成長し、今は二人の子供を持つ母親であります。

そして、何よりびっくりすることは子供を人間的な教育に取り組んでいます。

例えば、お昼ご飯は子供と必ず作り、おもちゃも一緒に作ったりです。私が買い与えますと、必ず上海の話が出ます。週1万円の貧乏暮らしに、娘は自分は幸せの上にあぐらをかいて我ままでしたと。主人の働きに応じて努力するから、家庭は明るく協力が心を満たされると。上海は娘に生きる人生を教えてくれた感謝の街です。

しかし、今回鼻に穴を開ける若者こそいなかったが、日本とよく似た若者が闊歩する姿は、第二の我まま娘の出現に余計な心配をしました。

川下憲二会員 上海視察旅行に参して

21世紀は、中国の時代と言われています。この度、職業奉仕委員長を団長に上海2泊3日旅行に参加させて頂き、活気ある上海の発展振りを体験できました。金茂ビル、TVタワーに象徴される浦東経済特区の開発振りは目を見張るものがあり、私が想像していた以上の発展に驚きを覚えました。

外国からのプレゼントで賄われている施設が多いのには、中国商人のしたたかさ、ずるがしこさも脅威に感じました。また、黄浦江を隔てた旧の市街地と浦東経済特区のコントラストが現在の中国の姿であり、悩みでもある印象を強く持ちました。

30年前の日本と現在の日本 いやそれ以上の日本が混在するという、発展途上のならではの光景とは思いますが、余りにはっきりしたコントラストにも驚きました。

今回の旅行での感激は、やはり本場の中華料理と外灘の夜景の美しさでした。四川料理にはじまり、上海料理。

フカヒレ料理と美味しい本場の味を堪能させて頂きました。外灘からの夜景は、先に述べたコントラストが黄浦江の左右で違ったエコーを放ちその美しさは素晴らしいものでした。

私にとって今回が初めての中国旅行でしたが、この国の持つ潜在的能力、パワー、したたかさに10年後の日本の立場がどうなっているか。脅威と不安を覚える旅でした。今回のたびを企画して頂いた職業奉仕委員会の皆様に御礼申し上げます。

三軒久義会員 上海旅行について

私ども夫婦だけが一日遅れて上海に着きましたので職業見学には参加できませんでした。しかし空港から上海市内への車の中からの景色を見たり、ホテルから夕食会場へ約40分間街中をぶらぶらあるくことによって、上海の発展の素晴らしさにただ驚くばかりでした。人口は1,400万人とも1,600万人とも言われ、東京よりも人口が多いのにもびっくりしました。今は建築ラッシュで高層ビルがどんどん建てられています。

1日目の夜は先発の皆さんに合流して食事の後上海雑技団を見て感激し、翌日は蘇州見学に行きました。日本語の上手な良いガイドさんが付き添ってくれ、中国の現状を聞きました。その夜、細川委員長が予約してくれた夜景の素晴らしい浦東のレストランで上海料理を頂きました。

3日目の午前中は上海博物館を見学致しましたが、これが又なかなか立派でもっと時間をかけて見たいものばかりでした。昼過ぎ上海を出発し、夕刻関空へ無事帰り着きました。今の上海は社会資本主義といえるのでしょうか。土地のみが国有ですが、頑張ってお金を持てば良い家も買えるし、車も持てるそうです。殆どの人々は必死に働いており、将来経済大国になる予感がしました。

しかし、今は給料が安い共稼ぎが殆どで、子供は退職した両親に見てもらうか、保育所に預けるかです。しかし保育所は日曜日に連れて帰る以外預けっぱなしとのことで、親子の情が湧き難いということでした。病気になると若い人は9割が自己負担で、国は1割しか払ってくれないそうですが、老人になると1割の自己負担で9割を国が払ってくれるそうです。これもある意味で合理的かなとも思えます。一人っ子政策も農村では上が女だと又男が生まれるまで生めるそうです。労働力確保のためだそうです。又、上が障害者の場合ももう一人生めるそうです。

とにかく上海に居ると、とても社会主義の国という感じが全く無く、東京や大阪で暮らすのと何ら変りがないように感じられ、しかも日常生活は安価で贅沢さえしなければ生活しやすいように思えました。フカヒレもアワビも上海ガニも小籠包も食べられ、食べることに満足しました。

今回このような機会を与えて下さった細川職業奉仕委員長を始め、西田和会員など関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。本当に行って良かったと喜んでます。

有難うございました。

細川 治会員 職業奉仕委員長として

今回職業奉仕委員会として、初めて海外に出向きました。今まで日本の工場見学などを親睦旅行と兼ねて行っていました。私は仕事の関係でよく中国に行く機会があったので、皆様にも是非とも一見して頂きたいと考えました。理事会で相談に乗って頂き綿密な計画を致しました。ロータリー活動の中でこうした案に参加頂いた有志の方に

厚く御礼申し上げます。

ちょうど河内長野の秋祭りとなり、参加者が減りましたが、途中トラブルも無く安堵致しています。

私たちは、上海の新しいところを垣間見えました。整備された高速道路。中央分離帯の広いこと。20メートルはあろうかと思われる分離帯には、植木と花が整然と植えられています。市内の分離帯にも狭いながらも同じように花が植えられていました。日本であれば空き缶や、ゴミやタバコの吸殻が捨てられています。12年前に

来た時の上海は、高速道路も無く、地下鉄もありませんでした。市内の道は地方からの車が運んでくる泥だらけで、一度雨が降ればドロドロで、車の車輪のしびきが自転車の人に遠慮なくぶっかけられていました。

上海では3年前は一昔。10年前は大昔と言われています。全く同感です。

経済特区の浦東地区は、10年前は農作地で何も無いところでした。東方明珠のテレビ塔がいち早く建てられ、その高さを誇っていました。今ではそのテレビ塔も周囲の建物に圧倒されて小さく感じられます。上海の建設ラッシュは落ち着いてきたようです。5,6年前までは竹の足場に囲まれた建設中のビルをよく見かけました。今回見かけた建設中のものは、全て鉄パイプの足場になっていました。浦東地区には、ゴミひとつ落ちていませんでした。世界一を意識し、自信と余裕さえ感じさせる上海です。ガイドの洒落に「地震の無いのに自信があります。」世界一になることに自信があります。とさえ言っているようです。

この視察旅行を通じて、これからも日本が世界経済的にリーダーシップを取り続けるための一策となれば職業奉仕委員長として幸甚です。